



TK MAX 金融・経済レポート

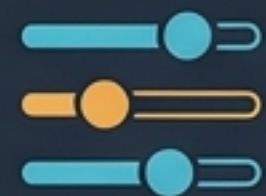
米国株 需給流動性複合ストレステスト

メガIPOのドミノ連鎖とAI CapExバブルの深層を読み解く

Website <https://tk-max-site.vercel.app/> ・ X https://x.com/TK_MA55 ・ Email tk_max@ymail.ne.jp

結論は、あなたが組み立てる。

TK MAXは、特定の結論に誘導しない独立系シミュレーターです。公開データとIBレポートを基に、自ら前提条件を動かして市場構造のディープダイブを行います。



パズル体験: 前提条件のスライダーを自ら動かし、自分なりの結論を探る。



完全な中立性: 暴落煽りも買い煽りもなし。広告・収益化なしの非営利運営。



リアルタイム連鎖: 一つ的前提が変われば、結果がどう連鎖的に変わるかを体感。



2つの市場圧力と、 3つの未来予測シナリオ

追い風

標準

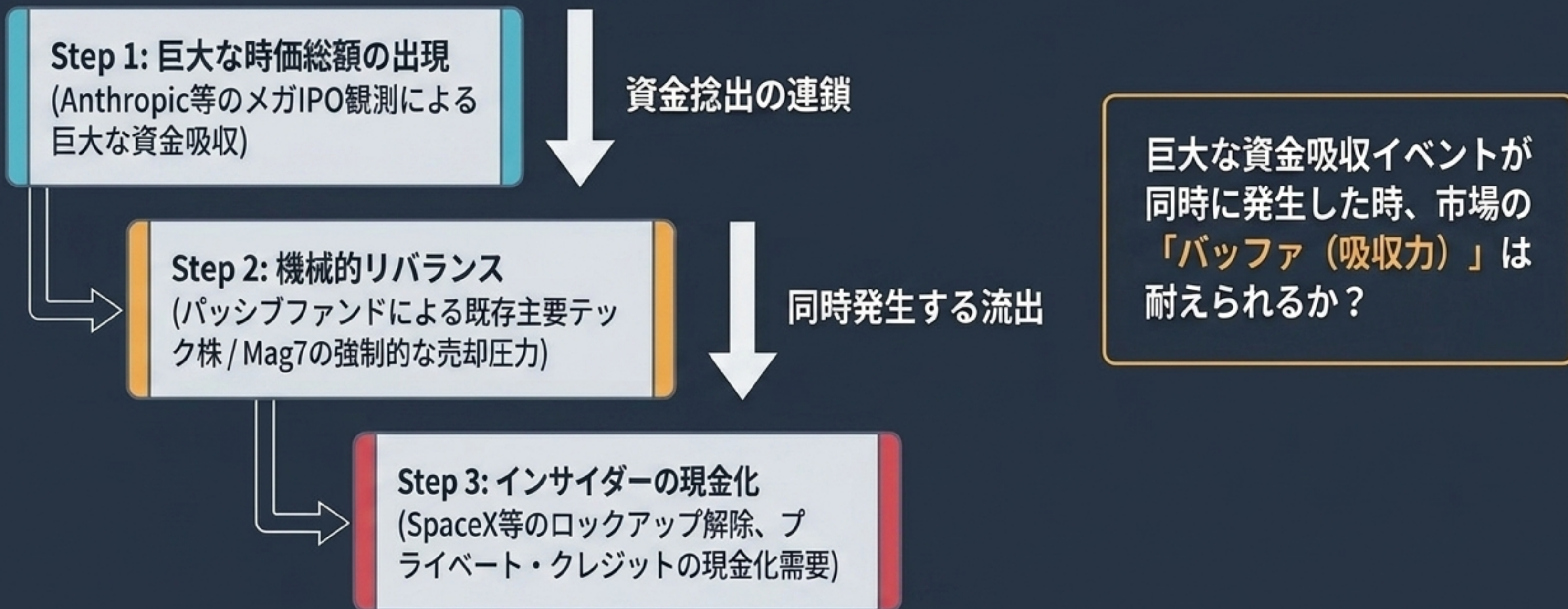
逆風

シナリオ制御パネル: 「追い風」「標準」「逆風」 — 3つの環境シナリオをワンクリックで切り替え、前提条件の変化を即座にテスト。

Tab 1 エンジン: メガIPO × ロックアップ解除のドミノ (公開市場の需給歪み)

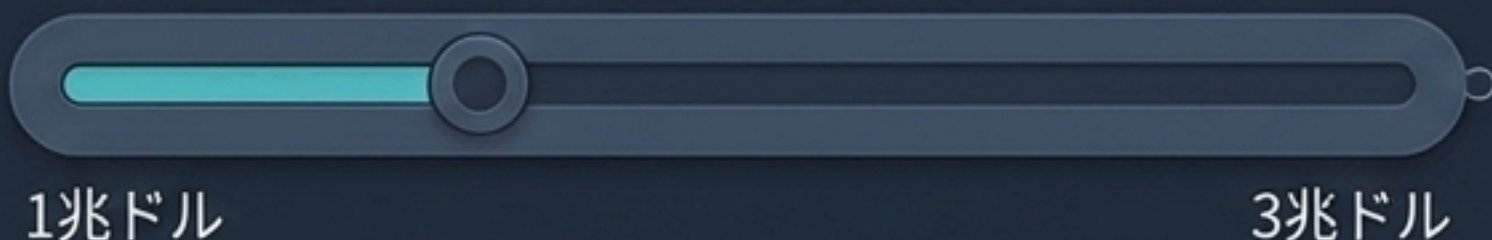
Tab 2 エンジン: AI CapExバブルと非公開マネー (未上場市場の流動性ストレス)

メガIPOとロックアップ解除が引き起こすドミノ連鎖

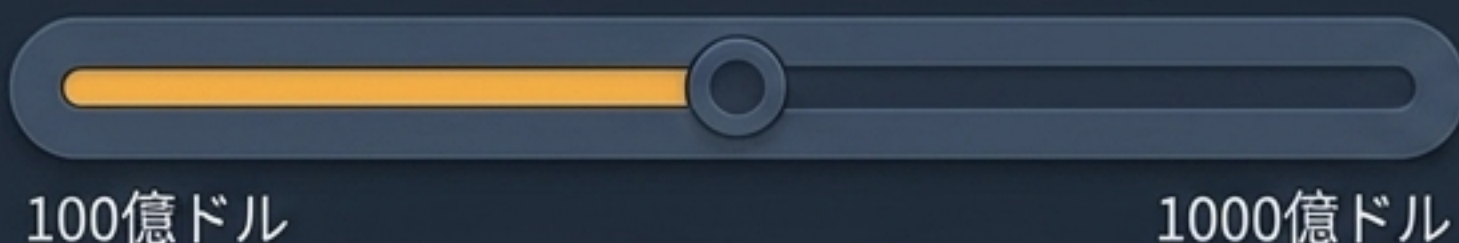


公開市場の需給ストレスを測る3つの変数

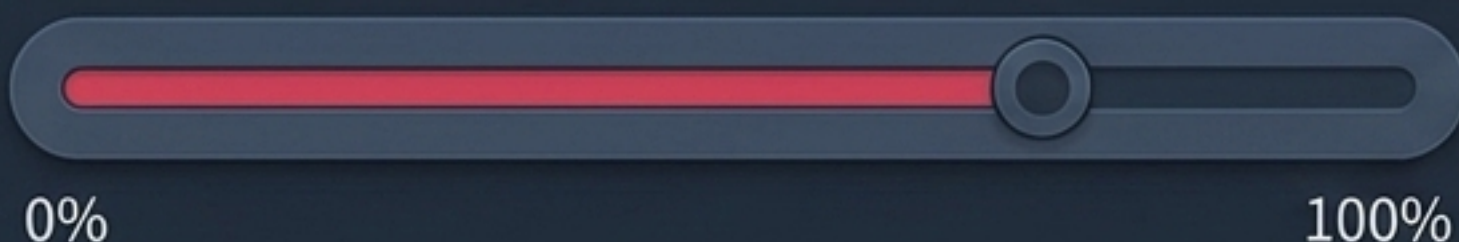
Anthropic 想定時価総額: (リバランス圧力の規模)



SpaceX・PE 現金化圧力: (資金流出の規模)



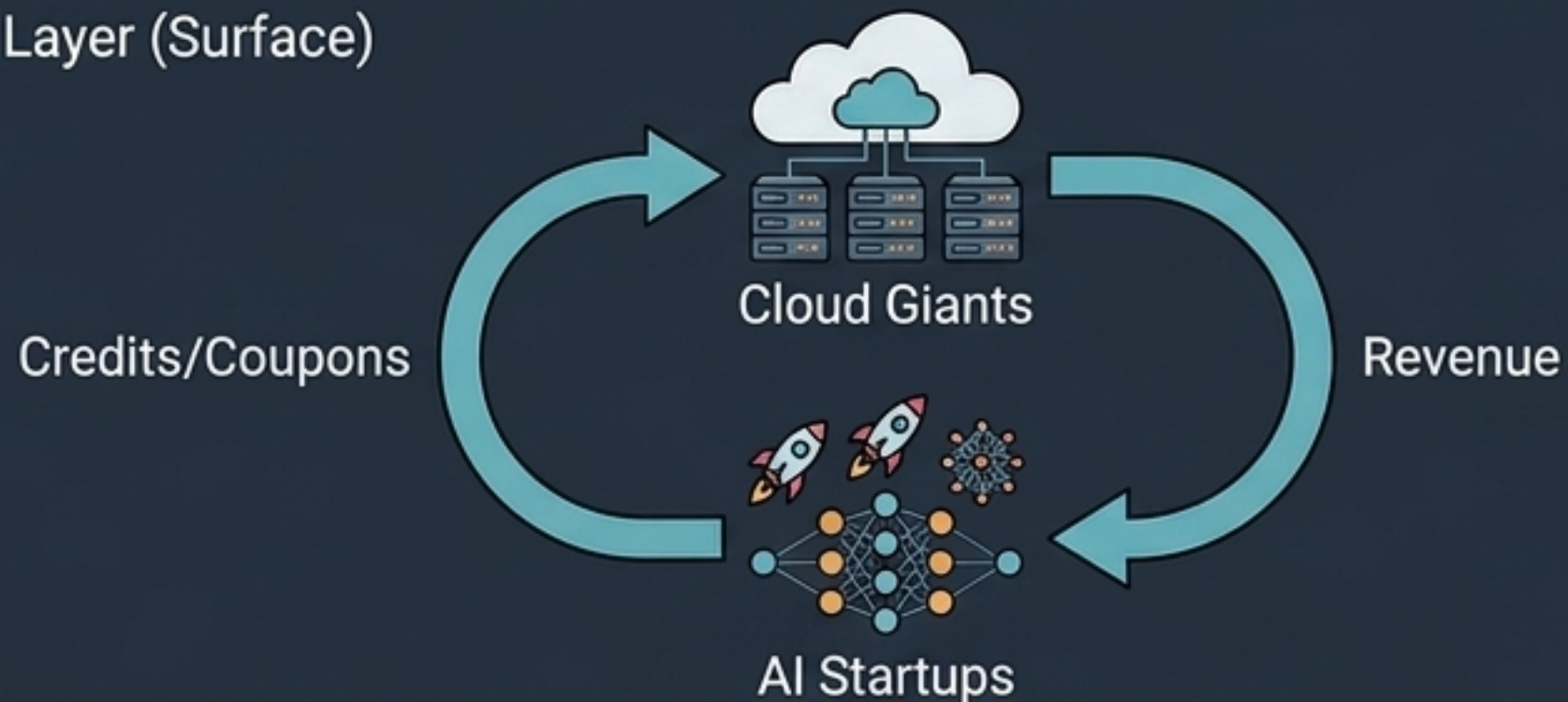
市場の余剰資金バッファ:
(FRB引き締め・RRP残高等に基づく吸収余力)



需給ストレス指数
(初期値 55前後：警戒)

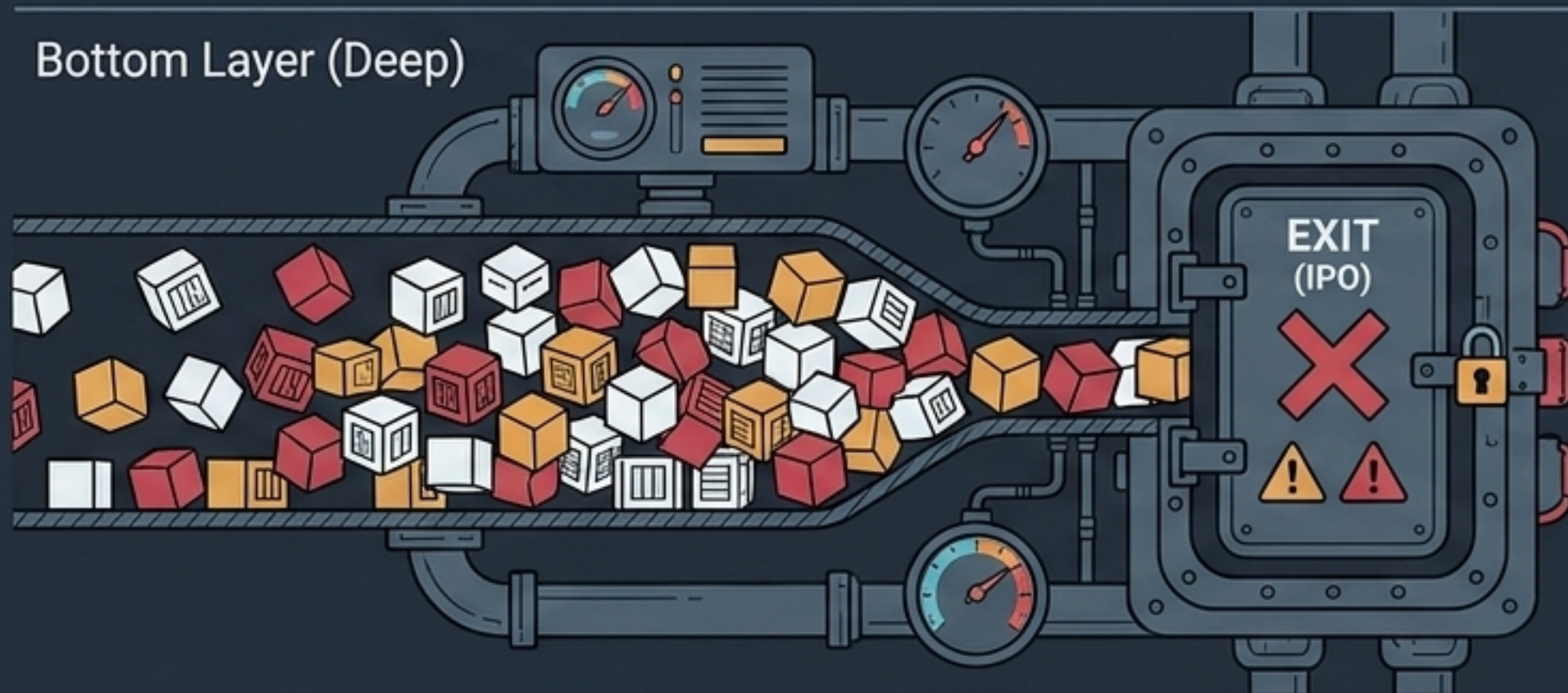
AI CapExバブルの表層と、目詰まりする非公開マネー

Top Layer (Surface)



表層の循環（クーポン券投資の欺瞞）：
クラウド大手が現金ではなく「自社サービスの利用枠」で出資。AI企業はそれを名目上の「売上」として計上。乖離するキャッシュフロー。

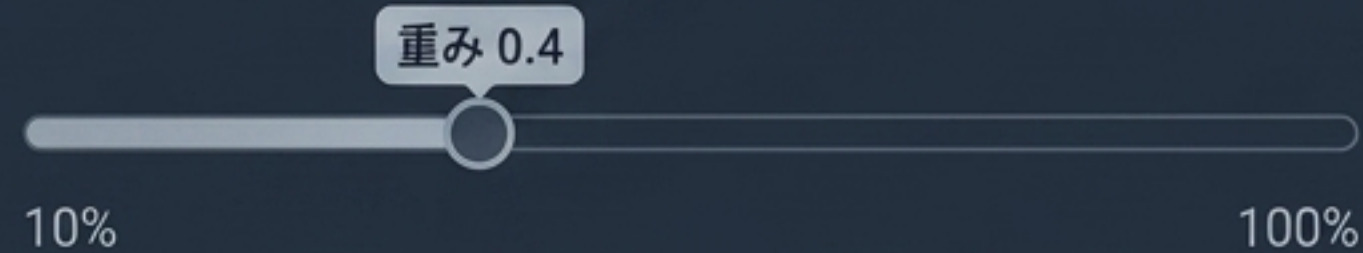
Bottom Layer (Deep)



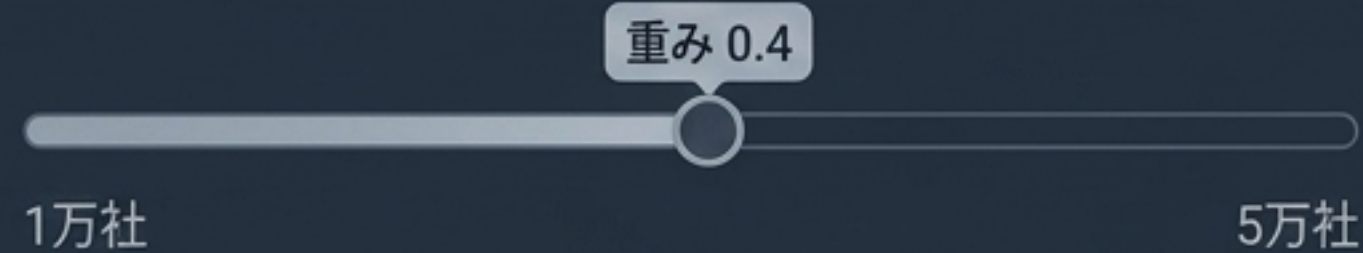
深層の滞留（PE在庫3万社の爆発リスク）：
上場（IPO）できず滞留する未上場企業。
投資家へ現金を返せない出口（IPO）の深刻な目詰まり。

欺瞞の流動性とバブル崩壊リスクを数値化する

クーポン券（クレジット）依存度: [重み 0.4]



PEファンドの出口目詰まり度: [重み 0.4] (2万社超で警戒水準)

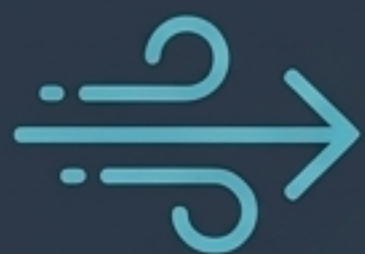


大口投資家(LP)解約ゲート閉鎖強度: [重み 0.2]
(リアルマネーの枯渇度)



バブル崩壊ストレス指数
(初期値 60前後)

ワンクリックで連鎖をテストする3つの環境設定



追い風シナリオ

前提: 金融緩和の進行、IPO市場活況、十分な市場の余剰資金バッファ。

結果: スムーズな資金循環を維持 (SAFE領域)。



標準シナリオ - 初期値

前提: 現在の市場環境の延長。部分的な資金詰まりと限定的な現金化圧力。

結果: ギリギリの均衡を保つ臨界点 (WARNING領域)。



逆風シナリオ

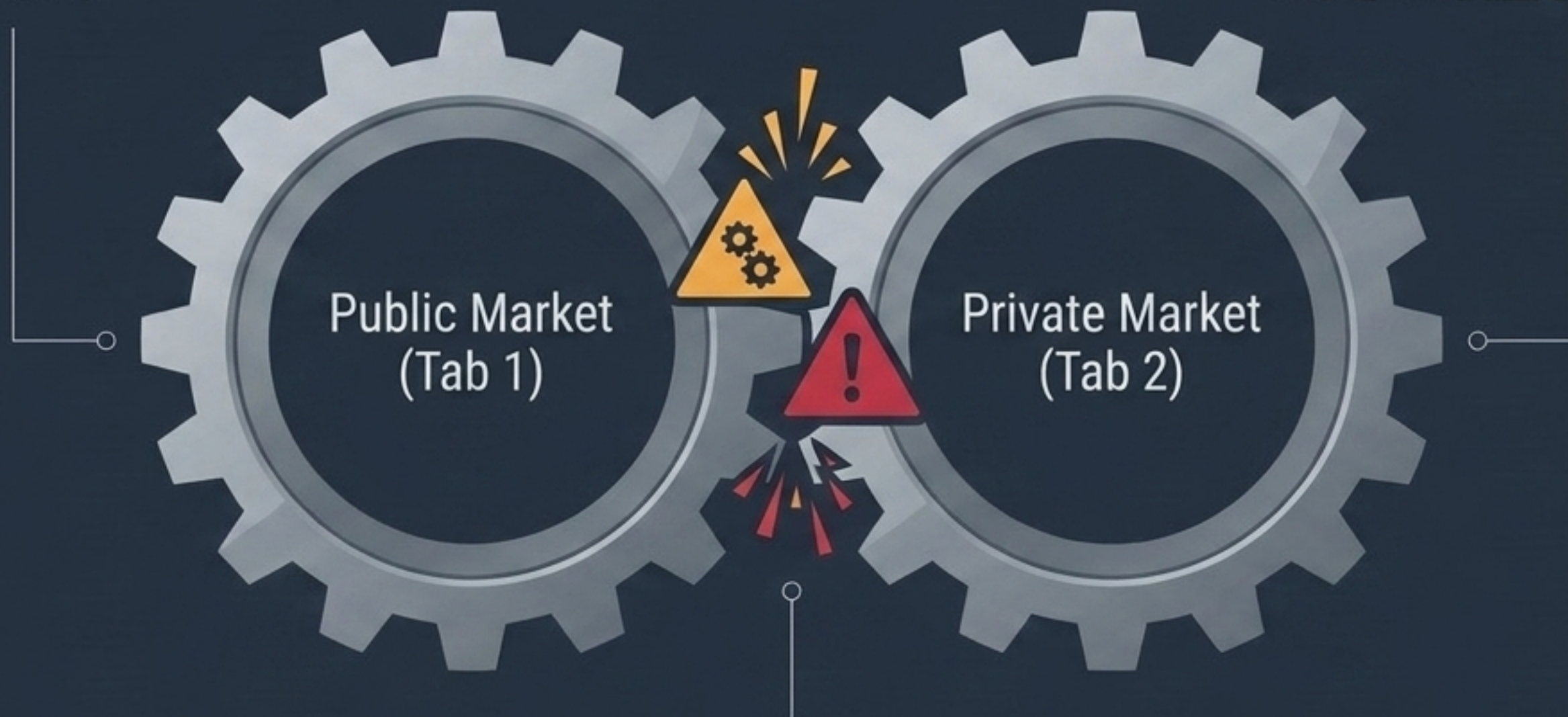
前提: マクロ引き締め、IPO延期、解約請求の殺到によるリアルマネー枯渇。

結果: ドミノ倒しによる流動性枯渇と強制売却 (CRISIS領域)。

公開市場と非公開市場の現金化圧力は共鳴する

相互接続の罠：メガIPOの需給歪み（公開市場）と、PEファンドの出口目詰まり（非公開市場）は独立していない。

波及するマージンコール：片方の市場での強制的な現金化圧力が、もう片方の市場での資産売却を引き起こす。



配管の理解：係数はあくまで仮定値。数字を絶対視するのではなく、「どこにシステムの脆弱性があるか」という構造（配管）を理解することが真の目的。

自らの手で、市場の「配管」をシミュレーションする

TK MAX 金融・経済レポートへアクセスし、ストレステストのパラメーターを実際に動かしてみましょう。

本ページは独立した分析・研究目的の簡易モデルであり、投資助言を目的としません。内容の正確性や将来の市場動向を保証するものではなく、特定の株価暴落・急騰を煽る意図也没有。係数はFRB等の推計を参考にした仮定値です。判断は訪問者ご自身で行ってください。